

談天

DANTEN



ますこ じろう
増子 次郎

一般社団法人東北経済連合会 会長

次代を担う若い力の躍動を追い風に、
夢と希望を持てる地域の実現へ

昨年6月に海輪前会長からバトンを引き継いで半年が経過しました。会長就任後、東北・新潟地域の総合経済団体として、産学官金をつなぐプラットフォーム機能を果たすべく、ビジョン「わきたつ東北」の実現に向けて「事業の深化」と「新たな課題への挑戦」に取り組んできました。

世界との関わりに目を向けると、ロシアによるウクライナ侵略に端を発するエネルギーや原材料価格の高騰、円安の急速な進行など、社会を取り巻く環境が大きく変化し、長期化するコロナ禍の悪影響に追い打ちをかける結果となっています。

大都市圏に比べ基盤の弱い我々地方経済は非常に厳しい状況が続いていますが、そうした中で、夏の甲子園で仙台育英学園高等学校がついに深紅の大優勝旗の「白河の関越え」を果たし、メジャーリーグでは大谷翔平選手が投打にわたる活躍で大記録を打ち立てました。次代を担う若い力が新たな歴史を創っていくその姿に、誰もが「わくわくする気持ち」を覚え、大きな夢や目標を持つことの大切さを実感しました。

かつて、米国のジョン・F・ケネディ大統領が「人類を月に着陸させる」と宣言したアポロ計画。この計画になぞらえて、人々をわくわくさせるような大きな夢や目標への挑戦を「ムーンショット」と呼ぶようになりました。最近では、新型コロナワクチン開発の成功がムーンショットとして挙げられています。政府も「人々の幸福」の実現を目指し、9つのムーンショット目標を掲げており、我々経済界も、地域社会や若い人たちがわくわくするような、大きな目標にチャレンジしたいと思っています。

東北・新潟においては、2024年の運用開始を目指す次世代放射光施設「ナノテラス」をはじめ、国際リニアコライダー（ILC）、ITER（国際熱核融合実験炉）、福島イノベーション・コースト構想など、未来志向の科学技術プロジェクトが太平洋側で進められています。一方、日本海側では、カーボンニュートラルの実現に大きな貢献が期待される洋上風力発電プロジェクトが目白押しです。まさにムーンショットかもしれませんが、我々の地域が有する「最先端科学技術」と「再生可能エネルギー」というポテンシャルを、十二分に引き出し面的に融合させることで、東北・新潟への産業の再配置・集積や東北・新潟発のイノベーション創出を図り、夢と希望を持てる「わきたつ東北」の実現に端緒を開くとともに、我が国の競争力向上にも貢献できると考えています。

今年うさぎ年。うさぎが暮らす月に、私たちのムーンショットが届くよう、会員の皆さまとともに取り組んでまいります。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（東北電力株式会社 取締役会長）